

検討委員会①・学校 WS①・地域 WS①・上位計画から、大きく 4 つの視点（学び、生活、環境、防災）を踏まえ、また、整備方針を具現化する方策（案）を挙げることでより分かりやすくしました。方針はあくまでも決定ではなく、議論のためのものです。

検討委員会②の協議の中で、「高野口らしい」整備方針をつくりあげていきましょう。

整備方針・方策が際立つように
全体の構成を修正
(太枠で囲み、4つ視点は方針の中に入れ込む)

委員からのイメージしにくいとの意見から
「方策（案）」と「意見の整理」の項目は
具体性を補うように修正

視点	方針（案）	方策（案）	これまでの検討＝意見の整理
学 び	方針 1： 主体的に学ぶ 対話が生まれ 主体的にたくましく未来を創造する 学びのある学校	01『対話が生まれ、自ら考える深い学びをハードからサポートする学校』	・横断的な学び、多目的な学びに対応でき主体性を育む ・主体的、対話的で深い学びを実現する教科コモンズ、プレゼンスペース（発表） メディアスペース（図書） メディアセンター（図書）
		02『居場所を選択でき、多様な学びを助長する学校』 02『一人ひとりが、多様な学び方ができる学校』	・多様な居場所が学校全体にある ひとりひとりの学習スタイルに合わせた空間づくり 一人ひとり
		学校 03『全体が学びの場になる学校』	廊下も、階段も、体育館も、校庭もあらゆる空間が学びの場 ・メディアセンターを中心に、教室・コモンズ・校庭など、学校全体のあらゆる空間が学びの場
生 活	方針 2： 健やかに過ごす 誰もが健やかに過ごせる 居場所となる学校	01『ひとりひとりの顔がみれる学校』 01『生徒一人ひとりの顔が見え、交流と安心が生まれる学校』	・顔の見える見通しの確保　・分かりやすい各室構成 ・誰ひとり取り残さないインクルーシブな環境 （包括的な）
		02『どんなときでも快適に過ごせる学校』 、心地よく健やかに	・季節、天候に左右されない快適な生活環境 ・だれもが安心・安全に過ごせる
		03『全ての人が使いやすいユニバーサルデザインを実現した学校』	・校舎のバリアフリー化やトイレ、衛生設備の充実 ・すべての生徒、教職員、地域の人が使いやすいデザイン
地 域	方針 3： 共に 地域と育つ 地域に愛され、 地域と共に人を育む 開かれた学校	01『いつでもふらっと立ち寄れる「地域の居場所」のある学校』	・学校と地域が見守り合える関係性を現校舎から引き継いで構築 ・地域の新しい価値となる学校づくり
		02『 学び、 地域と共に創造的な活動ができる学校』	地域への 地域資源を活用した生徒の学びのきっかけとなる展示スペースの設置 ・地域と共に創造的な活動が展開できる共創空間の設置
		03『豊かな自然や歴史を活かし、魅力を後世につなぐ学校』 03『歴史・産業・人の営みを活かし、未来につなぐ学校』	・地域資源を大切にうまく活用した学校 眺望、通風、採光を確保し、まちや自然を感じられる学校 ・世界遺産の玄関口として地域情報を発信し、世界に誇れる学校
安 全 ・ 環 境	方針 4： 未来へつなぐ 安全と環境負荷を低減し 持続可能な環境づくりを 実現した学校	01『環境負荷を低減した持続可能な学校』 01『自然と調和した持続可能な学校』	・眺望、通風、採光を確保し、まちや自然を感じられる学校 効果的な断熱、省エネ設備の導入による環境負荷の低減 自然エネルギーを活用し、快適な学習環境を実現 ・自然エネルギーを活用し、効果的な断熱、省エネ設備の導入による環境負荷の低減
		可変的で 02『長く使い続けられる学校』	・耐久性の確保　・50年、60年先を見据えた学校 ・フレキシビリティが高く、柔軟な学習環境を実現
		03『防災拠点として地域を守る学校・地域が守る学校』 03『いつもの安全、もしもの安全を備えた防災拠点となる学校』	耐久性が高く ・災害に強い学校 避難所として利用可能な学校づくり 安心して安全に利用できる学校
凡例	：検討委員会①・学校 WS①・地域 WS①で出てきた視点のフレーズ ：上位計画で出てきた視点のフレーズ		